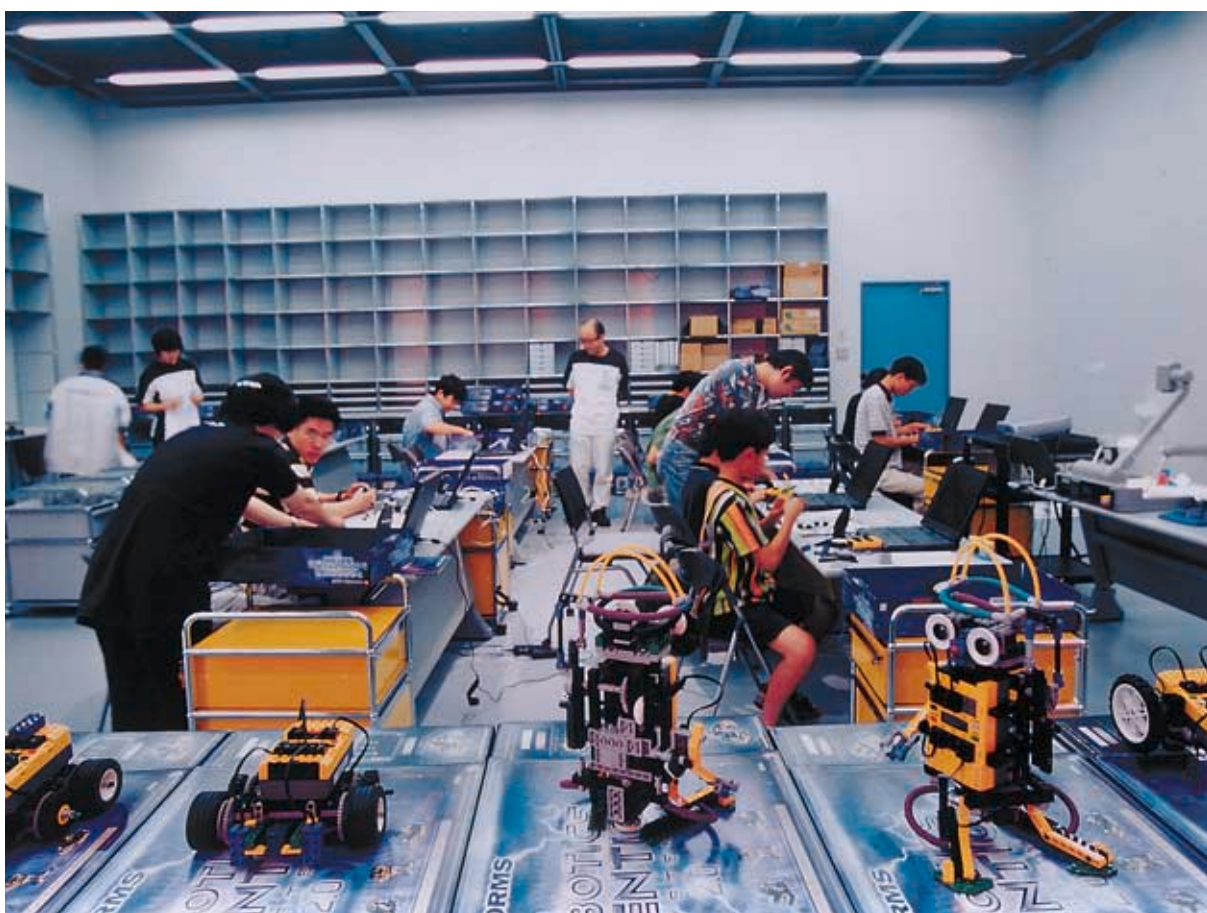


みらいCAN

ニュースレター

miraikan newsletter
2002 March No.008

日本科学未来館友の会特集



[今月のトピックス] 3階実験工房ロボットコース レゴマインドストームを使って初心者でもやさしくロボットをつくる
ことができます。他にも超伝導・レーザー・バイオなどの実験コースもあります。



Contents 2002 March No.8

- 01 「実験工房」ロボットコース
Contents
- 02 2月開催のイベント報告
- 04 友の会特集「みらいくん」
- 06 スタッフ紹介
- 07 ボランティア活動
- 08 3・4月のイベント

1月20日に開催された「友の会新年会」に毛利館長も出席し
会員の親睦を深めました。

第8号

2月開催のイベント報告

展示の前で研究者に会おう!
地球に触ろう! ~地球規模で移動する生き物たちの生態-クジラ-
竹村真一先生、大隅清治先生
(2月2日(土)17:00~18:00)

2月2日に1Fエコシアターにて「地球に触ろう!」をテーマに「展示の前で研究者に会おう!」が開催されました。新たに導入された展示物「触れる地球」について、竹村真一先生(東北芸術工科大学教授)、大隅清治先生(日本鯨類研究所理事長)のお二人をお迎えしました。触れる地球の発案者である竹村先生が直径1mの青い地球に触れると、スペースシャトルから見た地表の映像などが後部のスクリーンに映し出されました。さらに鯨の研究の第一人者である大隅先生のお話により、太平洋を移動する鯨の軌跡が、触れる地球上に現れました。今回は鯨のお話ということもあり、あらゆる世代の方々から質問が寄せられ、また多くの参加者たちが終了後にも地球に触れている姿が印象的でした。(交流企画グループ・湯川博貴)



H- A ロケット試験機2号機打上げ
ライブ中継
(2月4日(月)11:32~)

2月4日に1Fの400インチ大型ディスプレイにおいてH-IIA試験機2号機の打ち上げがライブ中継されました。昨年8月の試験機1号機の打ち上げに続き、毛利館長も参加して打ち上げの様子を見守りました。平日にもかかわらず大勢の来館者が集まり、リアルタイムの迫力ある大型映像を見ながら、大きな拍手と歓声が上がりました。今回はH-IIAの信頼性向上を図る重要な確認試験でしたが、見事に打ち上げに成功しました(搭載衛星の軌道は一台未確認)。今回の打ち上げにあわせて、5Fサイエンスギャラリーでは、展示中のLE-7Aエンジン周辺で、ミニシアターおよびパネル展示を実施しました。(交流企画グループ・清水健次)



第1回 ROBO-ONE
世界初! 二足歩行ロボット格闘競技大会
(2月2日(土)・3日(日))

「もっと強くもっとカッコよくもっと楽しく」をテーマに世界初の二足歩行ロボット競技大会が2月2~3日の2日間にわたりシンボルゾーンで開催されました。アマチュアのロボット制作者(ホビーイスト)たち38人が参加して大変な盛り上がりを見せました。アトムやガンダムを自分で作りたい、という参加者たちの熱気が伝わってきました。協賛社のブースでは、各社の開発したロボットと来館者が楽しく遊んでいました。今回の大会のために、中国より先行者(ロボット)の開発者の馬氏、周氏を招待し大会に花を添えました。メディア取材も大変多く、テレビ・新聞・雑誌・ネット上で大会の様子が広く報道され関心を集めました。決勝戦を熱心に観戦していた毛利館長も、ホビーイストの技術の高さに関心していました。次回の大会に向けてホビーイストたちの戦い(技術の向上)はすでに始まっています。(交流企画グループ・清水健次)



未来をつくる技術の話
デジタルカメラ 薄さへの挑戦
東義彦氏
(2月9日(土)13:30~、14:30~)

2月9日に5Fすばるシアター横において「デジタルカメラ-薄さへの挑戦-」をテーマに、デジタルカメラの高品質化と小型化で日本が世界に誇る先端技術をミノルタ(株)東義彦先生にご紹介いただきました。一眼レフカメラのカットモデルを実際に手にとってカメラの機能の説明を聞いた後、厚さ2cmの最新型のデジタルカメラを分解し、小型ズームや構成部品を手に技術開発を中心に解説を聞きました。(交流企画グループ・牧原正記)



展示の前で研究者に会おう!
可能性を設計する~日本科学未来館の建物のしくみ~
櫻井潔氏、吉村憲氏、吉野繁氏
(2月16日(土)14:00~15:00)

お馴染みとなったシリーズ「展示の前で研究者に会おう!」が2月16日に開催されました。今回は「未来館の建築構造も展示物の一つ」ということで、当館の設計・建設に携わった日建設計の櫻井潔氏、吉村憲氏、吉野繁氏をお迎えしました。「可能性を設計する」というタイトルに従って、前半は1Fシンボル展示ゾーンで各建築構造について解説いただき、後半は二班に分かれて前半の講義で紹介された各ゾーンをツアー形式で見学しました。「清掃ロボット」、「耐震構造」などの最先端の建築技術や「光の庭」などの洗練されたデザイン空間の秘密が次々に明かされてゆき、約60名の参加者達は驚きと感心の入り交じった熱心な表情で3人の建築家の話に聞き入りました。最後の質疑応答では毛利館長を交え、白熱した議論が繰り広げられました。(交流企画グループ・湯川博貴)



1月開催のイベント
通信衛星を利用した日本科学未来館の遠隔学習
(1月30日(水)13:30~15:30)

1月30日(水)に日本科学未来館と宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校を通信衛星で結んだ遠隔学習(衛星テレビ会議中継)を実施しました。屋外の学習環境(遺跡や博物館等)と教室を連携させる「フィールド教育」の実現を目指した、宇宙開発事業団が推進するi-Spaceパイロット実験の一環です。今回の遠隔学習は、高校1年生(39名)の化学(5時間目)とロングホームルーム(6時間目)に行われました。総合司会の湯川がASIMOなど3Fの展示概要を紹介し、その後化学授業としてインタープリターの野田がマイクロマシンの製造法やナノテクノロジーについての解説をしました。生徒からマイクロマシンの用途やCDとDVDの違い等について質問がありました。ロングホームルームでは、毛利館長よりGEO-COSMOSのお話があり、また生徒側からはリモートセンシング技術の調査についての報告がありました。最後に毛利館長が「自分が思っていることや疑問に対して、それが事実であるのかどうかを自分の目で確かめ、追求することを忘れないでください!!」とメッセージを贈りました。(交流企画グループ・湯川博貴)

たのしい実験・工作教室
(2月17日(日)10:30~16:30)

2月17日に1Fシンボルゾーンで「たのしい実験・工作教室」が開催されました。3つのゾーンで、16回の多彩な内容の実験・工作教室が約1時間ずつ行われ、多くの参加者が実験・工作を楽しみました。(交流企画グループ・牧原正記)



「ロボット・ミーム」展が終了
(12月1日~2月11日)

2001年12月1日~2002年2月11日まで、1階催事ゾーンで開催されておりました「ロボット・ミーム」展は、約5万3千人の入場者を数え、無事終了いたしました。冬休みと1月後半からの週末は特に盛況で、ロボットデザインを体験する「パラメタライズド・ロボット」は順番待ちで列ができることも、期間中みなさんによって作られた紙工作のロボットは、実に3500体を数えました。

さて、こんな「ロボット・ミーム」展、あなたは体験されましたでしょうか?なお「ロボット・ミーム・データベース」は展覧会終了後も公開しています。まだの方は、ぜひアクセスしてみてください。
<<http://rbtmm.miraikan.jst.go.jp/>>「ロボット・ミーム」のミームはまだまだひろがっていきます。(交流企画グループ・福田幹)



友の会イベント報告

新春クイズラリー

新春クイズラリーは、1月2、3日の2日間で1000名を超える参加者がありました。問題はボランティア・インタープリターの協力で作成し、どんどん質問して答えを探す内容です。例えば、生命の科学と人間5Fの「ゲノムハーブのボールの数は？」は、子供がボールを数えればわかりますが、答えの23本はヒトの染色体をイメージしたものでした。「だったら46本では？」という方とはさらに会話が進みました。次回を企画中です。ぜひご参加ください。



【解説】ヒトの染色体は一種類2本ずつ22種類の常染色体と、男性・女性を決める2種類の性染色体があり、性染色体を1つのボールにしているの、ボールは全部で23本です。

新年実験教室

1月2～3日に友の会の新年実験教室を開講しました。親子参加も多く、講師とボランティアの指導で実験を楽しみました。

【ロボットコース】感覚系 2日間に各9組17名が参加、レゴ・マインドストームを用いてロボットを組み立て、先を識別してコースをたどる実験です。親子参加は小学校4年生以上で、はじめは苦労していた方も最後には全員が無事にコースを走らせることに成功しました。

【超伝導コース】2日4組7名、3日6組11名が参加しました。液体窒素を用いて超伝導状態まで冷却するので、安全の為に防護めがねを着用しました。親子参加は小学校5年生以上で、緊張感あふれた実験になりました。短時間で超伝導実験を体験でき、多くの方から「感動した」との感想を頂きました。

【レーザーコース】2日3名、3日2名が参加しました。予備知識のない方でも専門的科学的実験に取り組める少人数のコースです。レーザー装置、クリーンルームにはいるための無塵衣、防護メガネ、サングラスを準備して臨みました。指導が行き渡っているとご好評をいただきました。

(運営事業本部・庭木茂男)

新年会

1月20日(日)に友の会新年会が開催され、みらいCANホールに273名の会員が集いました。日本科学未来館の活動やイベントがビデオ上映やスタッフの話で紹介され、懇親のゲームも楽しんだ後、毛利館長を迎えて子どもたちがメッセージを発表しました。発表者は、内藤智哉(8)菅井壮宇(8)高橋理沙(9)鈴木崇之(9)鎌田瑞生(10)それに兄弟参加の佐藤友香里(13)正崇(10)永美香(8)の皆さんです。毛利館長との記念撮影があり、皆さんの質問にも館長がお答えしました。大人からのメッセージでは、鈴木真弓さんと名取美香さんにお話をいただきました。毛利館長からは、アンモ入社社の記事を読んで「年収を聞いて、そのロボットをたたき壊したくなった」と誤解した人に正しい目的を自ら説明したエピソードが紹介され、科学技術と私たちひとり一人の関係を考えることの大切さとともに、日本科学未来館の果たすべき役割について、毛利館長の想いが紹介されました。アンケートには積極的なご意見が寄せられており、今後の企画に反映する計画です。(広報グループ・井上徳之)



【参加者の声】

新年会に参加し、毛利館長に会えてうれしかったです。その後、展示室を見てからロボット・ミーム展を見に行きました。いろんなロボットを期待していたのですが、三つしかなくて残念でした。ですが、一番お家で行く、自分の好きな大きさのロボットをパソコンで作って展開図を持ち帰れるコーナーがあったので早速やりました。帰りの電車ですと考えると、ASIMOが作れるなあと思いついてみました。工夫したところは、関節の部分に丸い紙をはりつけて、本物をまねた部分です。また胸の部分に付けたみらいCANのマークは新年会の記念バッジを写しました。写真を見て下さい。(潮見和幸 10才)



見学バスハイク

2月3日(日)の友の会見学バスハイクには会員83名とスタッフ5名が参加しました。受付開始後すぐに定員となる人気でした。当日は東京駅からバス2台で、まず宇宙開発事業団・筑波宇宙センターを訪れました。センターでは説明員が同乗し、展示室、総合環境試験棟、研究開発棟を見学しました。本物の衛星や宇宙服を目の当たりにする度に感激の聲が上がりました。特に、国際宇宙ステーションの日本モジュール「きぼう」の実機の迫力には圧倒されました。午後には、つくばエキスポセンターを見学し、世界最大級のプラネタリウムで「星を見ることオリオンとともに」において冬の星空や世界各地の文化が紹介され、美しい映像と星にまつわる話が心に残りました。あいにくの雨天でしたが、無事にスケジュールを終え予定どおり午後5時30分に東京で全員笑顔で解散しました。アンケートには、科学への関心やイベントへの期待が寄せられており、今後の活動をさらに充実させたいと考えています。

(運営事業本部・原育美)



【参加者の声(アンケートより)】

個人では普段見学しない所が見学出来て良かった。(11名)
国際宇宙ステーション「きぼう」の実機を見られて感激した。(14名)
一日があつという間で、もっと長い時間見学したかった。(17名)
今後もこんな行事をどんどん企画して下さい。又参加したい。(26名)
他には、こんな年齢層が広いツアーは初めて、自己紹介等バスの中も楽しかった、会員の方と友達になれた、今度は孫を連れてきたい等。

投稿

友の会へ入会した理由

日本科学未来館館長が、毛利衛宇宙飛行士であることを知って入会しました。地上とは違う宇宙のことを一つでも多く知ることが出来るかもしれないと思ったからです。去年1月～3月に、毛利衛宇宙飛行士が出演されたテレビ放映を見ました。私の書いた童話「坂道」は、この番組の内容が大きく影響しました。「メダカがルーピング」というお話は私に、童話に宇宙を取り入れていくきっかけを与えてくれました。最初から宇宙に関して書くことと思ったわけではありませんが、宇宙メダカ、宇宙金魚のことが作品に強く出ているのは、いわば物語の中の一つとして、金魚を通じて宇宙に触れたかったのです。毛利さんの影響で、宇宙の本も十冊以上読みました。宇宙に夢を走らせることは出来ませんが、宇宙と地上が違うところに大いに興味を持っているのです。(木村つや子)



「ロボット・アナウンサー」直井愛子(小学校4年) 2111年、ある女の子の部屋。つけたチャンネルは「22」で、旧型ロボット「ファミリー」発射のアナウンサーは新型ロボット「HTT」けれど、この女の子は無関心みたい。22世紀、ロボットはどうなるのか...



井汲亜紀子(21歳)

会員の投稿募集中!!

友の会イベント案内

毛利館長との交流会

下記のとおり毛利館長と友の会会員との交流会を開催します。

日時：3月31日(日) 14時より約2時間
定員：約300人
内容(案)：毛利館長のお話、会員との交流、館長への質問、館長からのメッセージ、他
申込方法：「友の会・館長との交流会」係宛 往復ハガキ利用
返信ハガキにご自分の宛名をご記入ください
記載事項：参加者全員の氏名、年齢、会員番号、郵便番号、住所、電話番号、登壇発表の希望(有・無)
メッセージ、ご意見、ご提案
締切：3月15日必着(応募者が多い場合は抽選)

友の会・実験教室

「母の日」「父の日」に親子参加の実験教室を開催します。

母と子の実験教室 [5月12日(日)]

Aコース<ロボット> 13時30分より(2時間以上)
定員：母と子10組20名(子どもは小学校4年生以上)
Bコース<レーザー> 14時より(約2時間)
定員：母と子2組4名(子どもは15才以上)
Cコース<超伝導> 15時より(約1時間)
定員：母と子8組16名(子どもは小学校5年生以上)

父と子の実験教室 [6月16日(日)]

Dコース<ロボット> 13時30分より(2時間以上)
定員：父と子10組20名(子どもは小学校4年生以上)
Eコース<レーザー> 14時より(約2時間)
定員：父と子2組4名(子どもは15才以上)
Fコース<超伝導> 15時より(約1時間)
定員：父と子8組16名(子どもは小学校5年生以上)

申込方法：「友の会・実験教室」係宛 往復ハガキ利用
返信ハガキにご自分の宛名をご記入ください
記載事項：郵便番号、住所、電話番号、参加者2名の氏名、年齢、会員番号、希望コース名、返信宛先。
締切：母と子が4月12日必着、父と子が5月10日必着。
(応募者数が多い場合は抽選)

宛先：〒135-0064 東京都江東区青海2-41
日本科学未来館友の会イベント係
Tel：03-3570-9151 Fax：03-3570-9150

筒井三智

(インタープリター「生命の科学と人間5F」担当)

インタープリターとして一番やりがいを感じるのは、お客様と一緒に笑えるときです。それは体験の楽しさだったり、単純に科学を理解できた喜びだったり、場面は様々ですが、心が触れ合えるこういう瞬間をこれからも大切にしていきたいです。「いつもありがとう。」「前より自信が出てきたね。」「何度も訪れてくださるお客様からの言葉にいつも励まされています。」「また、お越しください!」



佐藤純子(アテンダント)写真左

夏にオープンした未来館でまもなく春を迎えようとしています。日々、多くの展示に囲まれて仕事をするようになり、以前よりも科学が身近なものになった気がします。一番の変化は科学、特に展示に関わりのある情報に積極的に接するようになったことです。お客様に教えられることも沢山ありますが、少しでも多くのお客様が未来館で楽しくお過ごしいただけるようにお手伝いしたいと思っています。

斉藤緑(アテンダント)写真右

私は未来館で働き初めてすぐに怪我をしてしまい、心身ともに辛い中で勤務をしていた時期がありました。そんな私を支えてくれたのはアテンダントの仲間たちでした。弱っている時に、進んで私をフォローしてくれるみんなの心遣いが胸にしみました。素晴らしい仲間と仕事できることを幸せに感じながら、今度は私から仲間、そしてお客様に、自分の受けた気配りをお返ししていきたいです。



恩田雄一郎

(インタープリター「生命の科学と人間5F」担当)

私が担当している生命のフロアには内視鏡が展示してありますが、解説をしているとお客さんの驚きの声をよく聞きます。「結構きれいに見えるね」「こんなふうに動くんだ」「えっ、これを飲むの!?」などなど。なかには「これ苦しいんだよ」と、実際に飲まれた方がいらっちゃって、私達が驚く事もしばしばです。みらい館には内視鏡のように「見て・触れて・楽しめる」展示がたくさんあります。それらの展示を体験して、皆さんもより多くの科学との出会いを発見してくださいね。



小沢淳(科学技術スペシャリスト、成果普及グループ)

「CP対称性の破れ」それが一体何になるのだろう。自称文学少女の加奈子は正直退屈していた。加奈子は、企業の研究所に勤める姉の真紀子に連れられ未来館に来ている。傍には、前から観たかったのよと目を輝かせて反物質構造理論のビデオを観ている姉。とその時、隣のブースの初老の紳士が問いかけてくる。彼は生命誌のビデオを観ているようだ。「真実はどこに?映像が言語か?そもそも真実とは?」。そんなゴダールの映画のような出会いがあるといいですね。サイエンスライブラリ。



玉井絢子(写真右) 飯田真澄(写真左)

(ボランティア「地球環境とフロンティア1F」担当)

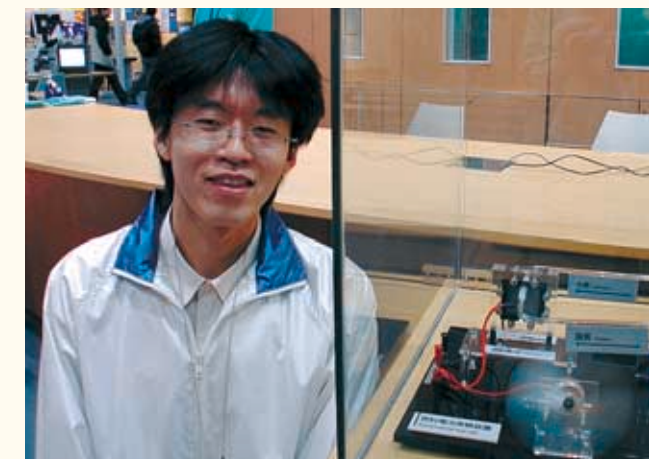
私達は友達に誘われて自分の勉強にもなると思いボランティアを始めました。まだ解説があまりできないのですが、インタープリターの方に教えてもらいながら楽しく活動しています。1階はグリーンプラや太陽電池などがあり、いつも小さな子供が楽しそうに作っています。太陽電池の所でいろいろ考えながらクリップコードをつないでいる子に「楽しい?」と聞いた事があり、その子は笑顔で「うん!」と答えてくれました。その事がとても嬉しくて、ボランティアをやっていると良かったなと改めて思いました。ボランティアのおかげでいろいろな人と話す事ができ、とても楽しいしたくさんのことを学ぶ事ができます。これからも、たくさんの人との出会いを大切にしていきたいです。(高校生)



太田望斗

(ボランティア「地球環境とフロンティア1F」担当)

ボランティアをやっていると面白いなと思うのは、子供。子供たちの予想外な発言、行動には、いつも驚かされます。そんな子供たちの行動などを見ていると、自分や大人が「当たり前」だと思っていることというのは、子供たちにとっては全然「当たり前」ではないんだろうなあって思うのと同時に、自分も子供のころは今「当たり前」だと思っていることを不思議に思ったり、大人から見たら「当たり前」ではない行動をしていたんだろうなあって思います。今「当たり前」だと思っていることを改めて考え直すと、またちょっと違った「物の見方」ができて面白いかもしれないですね。



ボラ(ン)テ(ィ)ア(活)動

研究棟見学ツアー研修

未来館内南側の研究棟で最先端の研究が行われています。これらの研究室を来館者に紹介する研究棟ツアーをボランティアが企画・案内する準備が始まりました。2月16日(土)には、17名のボランティアの参加があり、「相田ナノ空間プロジェクト」と「柳沢オーファン受容体プロジェクト」を見学しました。ボランティアからは、「気合いでがんばります!」「先端研究」はさすがにすごい!との声が聞かれました。(新井真由美)



学生ボランティア主催

「春休み実験教室」参加者募集!

生命分野の未来館学生ボランティアが中心となって、春休みに2つの実験教室を開催します。小学校高学年から中学生が対象ですが、親子参加も歓迎です。楽しい不思議な実験教室ですので、多数の皆さんの参加をお待ちしています。

【夢・わくわく化学実験】水と光の不思議

3月23日(土)13:30~15:30

場所:1階オリエンテーションルーム

募集人員:70名(予約制・先着順)

特別講師に東工大大学院市村禎二郎教授をお招きしています。

「DNAをみてみよう!」
~食べ物からDNAをとりだそう~

3月28日(木)~31日(日)の毎日11:00~12:00

場所:実験工房

募集人員:1日16名(予約制・先着順)

申込先: <http://www.keddy.ne.jp/scitech/> または
交流企画グループボランティア担当英または新井まで (tel 3570-9155)

- 1 「展示の前で研究者に会おう！」
 深海底から見た地球
 海洋科学技術センター 堀田 宏先生
 3月2日(土)14:00~15:00
- 2 深海底からの科学教室 - 生中継で深海魚に会えるかも -
 3月10日(日)14:00~15:30
- 3 科学の体験実験教室
 「ウーブレック - 科学者って何するの?」他
 3月17日(日) 28日(木) 29日(金) 31日(日)
 4月1日(月) 3日(水) ~ 7日(日)
- 4 「ミクロの不思議な世界」展
 ~ 電子顕微鏡で見るユニバソロジーの風景 ~
 3月20日(水) ~ 4月8日(月)
- 5 学生ボランティア主催「春休み実験教室」
 (1) 夢・わくわく化学実験 水と光の不思議
 3月23日(土)13:30~15:30
 (2) DNAをみてみよう 食べ物からDNAをとりだそう
 3月28日(木) ~ 31日(日)11:00~12:00
- 6 ロボカップ春季キャンプ
 3月23日(土) 24日(日)
- 7 お台場博物館スタンプラリー -
 3月23日(土) ~ 4月7日(日)
- 8 虫型ロボット競技会
 3月27日(水) ~ 29日(金) 9:30~17:00(予定)
- 9 「未来にたくす夢」サイエンスチャンネルにて放映
 4月7日(日) 14日(日) 21日(日)15:00~
- 10 ノーベル賞100周年記念特別シンポジウム
 「次代を担う若手研究者たち、館長を囲む(仮称)」
 4月20日(土)
- 11 サイエンス展示・実験ショー アイデアコンテスト発表会
 4月21日(日)11:00~
- 12 すばる望遠鏡の研究者と話そう
 ~ 日本科学未来館 - 国立天文台ハワイ観測所TV会議
 4月27日(土)13:00~14:00

ASIMO デモンストレーション

ASIMOがインテリク(解説員)として採用されて約1カ月。ASIMOが担当するロボットコーナーは、いつもお客様でいっぱいです。ASIMOもやっと日本科学未来館の床に慣れてきたようで、研修は順調に進んでいます。ASIMOのデモンストレーションの時間は下記のとおりです。

平日
 13:00 ~
 土・日・祝
 13:00 ~、
 15:30 ~



展示拡張工事に伴う閉鎖区域

展示スペースの一部が4月に変わります。より楽しく、より充実した展示を目指して、工事を行います。その間、展示スペースを部分的に閉鎖しますが、ご理解の上、4月からの新しい未来館にご期待ください。

閉鎖期間と場所
 2月23日~28日 3階の一部分(広場ロボットステージ付近を仮囲いにて)
 3月1日~26日 5階全フロア(5階のすべての展示物をご覧いただけません)
 なお、この期間にご来館された方には優待券を差し上げます。

みらいCAN ニュースレター

第8号 2002年3月発行

発行人/毛利 衛
 発行/科学技術振興事業団 日本科学未来館
 〒135-0064 東京都江東区青海2丁目41番地
 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150
 企画編集/日本科学未来館広報グループ
 編集デザイン/有限会社WORDS

ホームページURL <http://www.miraikan.jst.go.jp/>

3月	実験工房
1 Fri.	レ
2 Sat. インターネット電子顕微鏡	超 □
3 Sun. インターネット電子顕微鏡	超 □
4 Mon.	
5 Tue. 休館日	
6 Wed.	
7 Thu.	
8 Fri.	
9 Sat. インターネット電子顕微鏡	超 □
10 Sun. インターネット電子顕微鏡	超 レ □
11 Mon.	
12 Tue. 休館日	
13 Wed.	
14 Thu.	
15 Fri.	
16 Sat. インターネット電子顕微鏡	超 □
17 Sun. インターネット電子顕微鏡	超 レ □
18 Mon.	
19 Tue. 休館日	
20 Wed.	
21 Thu.	4
22 Fri.	超
23 Sat. インターネット電子顕微鏡	超
24 Sun. インターネット電子顕微鏡	超
25 Mon.	
26 Tue. 休館日	
27 Wed. 虫型ロボット競技会	
28 Thu. 科学の体験実験教室	
29 Fri. 科学の体験実験教室	
30 Sat. インターネット電子顕微鏡	レ
31 Sun. インターネット電子顕微鏡	レ

4月	実験工房
1 Mon. 科学の体験実験教室	お台場博物館スタンプラリー
2 Tue. 休館日	レ
3 Wed. 科学の体験実験教室(~ 4/7)	超
4 Thu.	
5 Fri.	
6 Sat. インターネット電子顕微鏡	超
7 Sun. インターネット電子顕微鏡	超
8 Mon.	
9 Tue. 休館日	
10 Wed.	
11 Thu.	
12 Fri.	
13 Sat. インターネット電子顕微鏡	超
14 Sun. インターネット電子顕微鏡	超
15 Mon.	
16 Tue. 休館日	
17 Wed.	
18 Thu.	
19 Fri.	
20 Sat. インターネット電子顕微鏡	超
21 Sun. インターネット電子顕微鏡	超
22 Mon.	
23 Tue. 休館日	
24 Wed.	
25 Thu.	
26 Fri.	
27 Sat. インターネット電子顕微鏡	超
28 Sun. インターネット電子顕微鏡	超
29 Mon.	
30 Tue. 休館日	

イベントの内容は変更することがあります。

実験工房 超:超伝導 □:レーザー ○:ロボットA